

【8月24日（木）】

	時間	講義内容	担当者	開講場所
1	11:00～12:40	<p>【福岡・九州の言語文化】</p> <p>福岡・九州地域の方言文化を中心に 下記のような話題の中から適宜に取り上げる予定である。</p> <p>① 【通時的研究に関する話題】 九州方言・福岡県方言の歴史的展開 音韻・文法・語彙各領域から適宜に</p> <p>② 【共時的研究に関する話題】 2000年代若者における「方言ブーム」の光と影 など 近年の若者語「あーね」の福岡における発生・展開 など</p>	坂本 浩一 教授 (福岡女子大学 国際文理学部)	福岡女子大学 C-101 教室
2	13:40～15:20	<p>【近代筑豊炭鉱における女性鉱夫の労働と家族】</p> <p>近代筑豊炭鉱の坑内労働においては、夫婦共稼ぎが一般的であったが、採炭過程の機械化をもって女性坑内労働者は主婦へと位置づけられていった。その変容の過程を明らかにする。</p>	野依 智子 教授 (福岡女子大学 国際文理学部)	
3	15:40～17:20	<p>【国家と人間 引揚げと送還の最前線から考える】</p> <p>アジアへの玄関口博多や佐世保の港は、敗戦にともない中国大陸や朝鮮半島、太平洋から引揚げてきた軍人や民間人約280万人が足を踏み入れた最初の故郷の地となった。他方、九州北部からは、戦時下に日本の炭鉱や工場に動員されたり、あるいは一般労働者として居住していた朝鮮人 55万人が帰還するという逆方向の流れもあった。引揚援護局があった付近は現在ハウステンボスとなっている。その近くには、「密航者」として送還対象になった朝鮮人が送られる大村収容所もあった。この授業では、ふたつの人の流れを管理する国家システムに焦点をあてながら、戦後直後はあいまいだった「国境」が、冷戦構造の中で強固なものとして構築されていくプロセスを検討する。九州北部に残る関連施設や人々の語りをもとに、生きた歴史として捉えながら、通常、地理的なものとされる国境が、移動する人のコントロールによって構築・固定化される局面を理解する。</p>	徐 阿貴 准教授 (福岡女子大学 国際文理学部)	

【8月25日（金）】

	時間	講義内容	担当者	開講場所
4	9:00～10:40	<p>【旅する筑紫の「道」 —名所の文学と創造力—】</p> <p>九州の地域を訪れた「来訪者」たちは、わたくしたちにも身近な「地域」をどのように見たのでしょうか。『筑紫道記』『九州道の記』『西遊記』等、過去から現在に至るさまざまな例と、文学の名所・歌枕のもつ心と言葉の働きをもとに、人々のものの見方に深く影響を与える文学・文化の要因とその行方を考えます。</p>	大久保 順子 教授 (福岡女子大学 国際文理学部)	福岡女子大学 C-101 教室
5	11:00～12:40	<p>【福岡女子大学・九州産業大学と近代福岡の歴史】</p> <p>本講義では、福岡女子大学・九州産業大学の前身校を含むキャンパス所在地に着目し、関連する事柄をトピック的に取り上げ、両校と近代福岡の歴史について学びます。</p>	井手 麻衣子 (福岡女子大学 100周年記念事業推 進室)	
6	13:40～15:20	<p>【福岡の古代・中世史】</p> <p>私たちの大学の周囲を見渡すと、この地域の歴史を彩った出来事にまつわる遺跡が数多く点在しています。また、古の歴史を教えてくれる多くの神社仏閣が存在します。</p>	渡邊 俊 准教授 (福岡女子大学 国際文理学部)	
7	15:40～17:20	<p>本授業では、ふだん何気なく見ているのかもしれない、例えば香椎宮・筥崎宮や立花山などの身近な場をとりあげて、そこから見えてくるこの地域の数百年前の歴史(古代・中世史)について検討・考察します。</p>		

【8月28日（月）】

	時間	講義内容	担当者	開講場所
8	9:00～10:40	<p>【九州の食と豚骨ラーメン】</p> <p>食と健康は不可分であり、私たちは九州の豊富な食材を上手に利用してきた。調理や加工方法には地域性があり、日本国内や海外と比較してみるとユニークなものも多い。このユニークさ（食文化）を紹介する。加えて講師が研究している九州豚骨ラーメンについても製法や分類について紹介する。</p>	米満 宗明 教授 (九州産業大学 生命科学部)	
9	11:00～12:40	<p>【北部九州の神功皇后伝説と香椎宮】</p> <p>福女・九産両大学の周辺には、古代を舞台とする神功皇后伝説が数多く伝わっていますが、その多くは中世以降に創出されたと考えられ、そこに香椎宮が果たした役割は少なくありません。また、北部九州地方には神功皇后を「聖母」と称して祀る聖母神社が多く見られ、その母神信仰の中心地であったのも香椎宮でした。この講義では、北部九州の神功皇后伝説と香椎宮について、歴史と民俗という二つの視点から考えてみたいと思います。</p>	須永 敬 教授 (九州産業大学 国際文化学部)	
10	13:40～15:20	<p>【九州の芸術文化-メディア芸術を中心に-福岡の映像芸術・アニメ・マンガ・エンターテイメント】</p> <p>福岡には他の地域にはない、メディア芸術の独特の芸術文化があります。メディア芸術とは、映像芸術・アニメ・マンガ・ゲームを含むエンターテイメントや、その複合領域を指し、近年特に注目を浴びている分野です。本講義では福岡や北部九州に根ざしたメディア芸術の今日的な状況や、これからの展望について解説します。</p> <p>またメディア芸術分野は、新しい芸術のジャンルとしても現在進行形で確立しつつあります。メディア芸術における芸術表現は、グローバルな視点からも、ひとつの潮流となりつつありますが、そこには一般的な商業や産業とは異なった複雑かつ哲学的な様相をみることができます。今回は、この芸術表現としてのメディア芸術についても触れていきます。</p>	黒岩 俊哉 教授 (九州産業大学 芸術学部)	九州産業大学 3号館 3303 教室
11	15:40～17:20	<p>【海を渡った「KAKIEMON」】</p> <p>今から約 400 年前、有田泉山（佐賀県）で磁器原料の陶石が発見され、日本における磁器生産が始まったといわれています。この磁器の歴史の中で「KAKIEMON」は、ヨーロッパに輸出され、王侯貴族たちを魅了し、後に生産が始まるヨーロッパの磁器産業に大きな影響を与えました。</p> <p>本講義では、酒井田柿右衛門や柿右衛門様式磁器をはじめ、有田焼に関する歴史や技法、意匠について広く学びます。</p>	濱川 和洋 助教 (九州産業大学 伝統みらい研究センター)	

【8月29日(火)】

	時間	講義内容	担当者	開講場所
12	9:50~11:30	【九州産業大学の歴史と現状】 1960年(昭和35)年に九州産業大学の前身である「九州商科大学」が開学してから60周年を超えた九州産業大学。創設者の中村治四郎氏の生い立ちから、教育への飽くなき情熱などを振り返る。	松原 岳行 教授 (九州産業大学 国際文化学部)	九州産業大学 3号館 3303教室
13	12:30~	【日本の歴史と香椎宮】 福岡においては著名な神社が数多くある中で、どちらかと言えば目立たない存在である香椎宮ですが、幾度か歴史に関わりのある事例も存在致します。 それらを時代別にピックアップし、資料室や境内でのフィールドワークも用いて講義していきます。	香椎宮	香椎宮
14	~16:00	※香椎宮までの移動方法、時間配分(講義、施設見学等)については改めて指示します。		